Ｑ７　学習指導案はどのように作成するとよいのでしょうか。

道徳科における学習指導案とは、授業者が、ねらいを達成するために、道徳科の特質を生かして、何を、どのような順序・方法で指導し、評価し、さらに主題に関する本時以外の指導にどのように生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式に表現したものです。学習指導案の作成の手順は、状況に応じて異なりますが、おおむね次のようなことが考えられます。

【指導案作成の手順】

１．ねらい・教材を検討する

年間指導計画に基づきながら、主題のねらいを内容項目と教材をもとに検討し、教材の内容が主題のねらい達成のために適切かどうか確かめ、指導の内容や教師の指導の意図を明らかにします。

２．主題設定の理由を明確にする

ねらいに関する児童の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、どのような指導をすることによって児童がねらいにせまれるか、指導の要点を明確にします。

３．教材を分析する

教材について、授業者が児童に考えさせたい道徳的諸価値に関わる事項がどのように含まれているかについて検討します。例えば、人物が登場する読み物教材の場合、その中の登場人物の行為や心の動きを分析し、教材に対する児童の感じ方や考え方などを予想します。どのように学習を進めていけば児童の学習意欲を高め、道徳的価値の自覚を深めることができるかなどについて検討します。

４．学習指導の展開を考える

ねらい、児童の実態、教材の内容などをもとに、授業の展開（流れ）について考えます。児童がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想します。

このような手順を基本としながらも、児童の実態や、指導の内容・意図などに応じて工夫していくことが求められます。特に、

重点的な指導　　体験活動を生かす指導　　複数時間にわたる指導
多様な教材の活用　　校長・教頭などほかの教師との協力的な指導
保護者や地域の人々の参加や協力

などの工夫が求められるので、多様な学習指導案を工夫して作っていくことが大切です。

【学習指導案の形式例】

指導案は教師の指導の意図や構想が適切に表現されることが大切です。各教師の創意工夫が期待されるため、形式に特に決まった基準はありません。一般的に用いられている形式に基づいて解説します。

第〇学年道徳科学習指導案

１．主題名

年間指導計画における主題名と内容項目を書きま

２．ねらい

学年の指導内容をもとにして、教材と関連させながら書きます。指導のねらいとする道徳的価値を具体的にまとめていくようにします。

３．教材名

出典も必ず明記します。

４．主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

ねらいや指導内容について教師の捉え方を簡潔に書きま

（２）児童の実態について

ねらいとする価値に関連する児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願いはどうであるかを具体的に書きます。児童の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点から捉えるよう心掛けま

（３）教材について

使用する教材の内容や特質を短くまとめ、その教材を取り上げた意図などについて書きま

事前にその教材について分析し、教材にある道徳的価値を十分把握しておくことで、発問や展開などを考えるときの基礎となる部分が明確になってきます。

５．教材分析

話のすじ	心の動き	気付かせたいこと

話のすじを追っていきます。国語のような段落わけではありません。その場の条件や背景、登場人物の行為など、ねらいとする指導内容を確認していきます。

話のすじに対応して、登場人物の心の動きを考えてみます。ねらいとする指導内容を達成するため、教材に登場する人物に焦点を当てて授業を組み立てていきま

話のすじと心の動きに対応して、児童に気付かせたいことを書き出してみます。ねらいとする部分や考えの広まる場面などを確認しながら、発問や考えさせたいことを明確に

６．主体的・対話的で深い学びにせまるための授業の工夫

◇「主体的・対話的で深い学び」とは、授業改善の視点です。道徳科では目標に示されている学習活動がそれにあたります。事例では、問題意識をもたせる工夫や多面的・多角的に考える工夫として手立てを書いています。

◇さらに、これらが「展開」の発問の意図や支援・留意点につながっていきます。

７．本時の学習
（１）本時のねらい
（２）本時の評価の視点
＜多面的・多角的な見方・考え方＞
・
＜自己を見つめる＞
・
（３）展開

◇ねらいはより具体的に記します。そのために教材の内容を含むことも考えられます。

◇「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」の「道徳科における評価」の根拠となる部分を書いておくことで、どのような視点から本時の授業の評価を考えているのか分かるようにしています。

◇発問〇◎に対してどのような（教師の明確な）意図があるのか「＊発問の意図」として書くと展開や授業記録が見やすくなります。
◇「☆評価の視点」は、学習過程のどの部分で授業者が評価をしようと考えているかが伝わるように具体的に書いています。

学習活動 〇基本発問◎中心発問・期待する児童の反応	・支援と留意点　＊発問の意図　☆評価の視点
１．導入 〇導入の発問	・
導入は、主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解をもとに自己を見つめる動機付けをしたり、ねらいとする価値への方向づけをしたりする段階です。 〇主題に関わる問題意識をもたせる導入：「〇〇とはどんな～でしょうか」 〇経験を想起し発表する導入：「〇〇をして、～な気持ちになったことは？」 〇教材の内容に興味や関心を持たせる導入：「〇〇という動物を知っていますか？」	
２．教材「　　」を読んで、話し合う（展開前段） 〇基本発問 ◎中心発問 ３．自分の生活を振り返る。 （展開後段） 〇展開後段の発問	
*展開*は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、教材によって児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解をもとに自己を見つめる段階です。児童の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていきます。「中心発問」は、ねらいとする価値について一番考えさせたいところの発問になります。 〇道徳的価値に対する児童一人一人の感じ方考え方を生かす 〇物事を多面的・多角的に考えられるようにする 〇児童が自分との関わりで道徳的価値を理解できるようにする 〇児童が自己を見つめる などのことに留意して考え作成してください。	
教材による価値追及をする前段、自分とのかかわりで価値をとらえる後段に分けられることが多いです。ここでは「２」が展開前段、「３」が展開後段となります。	
４．～をする 〇終末の活動	・
他の教科ではここでまとめをすることが多いですが、道徳科では「<u>終末</u>」とします。価値の押し付けにならないよう、終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考え、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、実践意欲への向上を図る段階です。学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする学習活動が考え	

※　他に「板書計画」を記述することで授業者の指導の意図がさらに明確になります。